

2020年度 授業改善アンケート1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

講義名	期間名	氏名	教員コメント
日本の歴史	1Q	牧之内 友	本講義では、単に歴史的知識を身につけるのではなく、学生と共に史料を読み進めて歴史の面白さを味わってもらいたかったです。しかし難しく感じたり、配布資料が多いと感じた学生も一定数おり、より丁寧な説明と資料の精選を心がけたと思います。一方で授業内でのコメント等を見ると、歴史への関心を高めてくれた学生も多かったです。コロナ禍に伴う遠隔授業実施など、例年になく難しい状況の中、受講してくれた学生みなさんに感謝します。
基礎英語Ⅰ	1Q	西崎 毅	授業満足度は「とても」が47%「充分」が35%「満足」が15%でした。「楽しかった。授業に様々な工夫があり、受けていて飽きなかった。そして、授業がとてつもなくわかりやすかった。最高だった。」「基礎からしっかり確認でき、苦手意識を克服できた。ずっと疑問だったことや理解できなかった点を学べた。細かい質問にも答えていただけて、楽しく学べた。」等の評価を励みに一層の授業改善に努めます。
基礎英語Ⅰ	1Q	宮嶋 達也	遠隔授業での進度が早かったという指摘があり、学生の反応がダイレクトに見えない状況下だったこともあるが進度についてはペースを落とす必要があると考える。文法の他リスニングの割合を増やしことで興味を持てる授業内容となった。
基礎英語Ⅰ	1Q	横田 肇	例年に比べ、全般的に理解度が向上し、英語への興味をもつ学生が増えたことは喜ばしい。ただ、依然として、一層の努力を望みたい学生も一定数おり、さらなる底上げを図りたい。合わせて、学習への取り組み姿勢の乏しい学生への対処も工夫したい。
基礎英語Ⅰ	1Q	岡島 徳昭	語学学習に興味を持てるよう教材以外の資料を用意した。毎回学生に問題を解かせ自主学习を促した。授業に関連する英文を引用し文法解説に努めた。
基礎英語Ⅰ	1Q	石田 暁子	私語もなく、真剣な授業態度だったため、理解をしていると解釈して授業を進めたが、内容の理解に難のある学生がいたことがわかった。後期の「基礎英語Ⅱ」ではさらに工夫をしていかなければならない。学生個々の努力の差が理解の差につながっていた。
ドイツ語入門Ⅰ	1Q	河田 一郎	高評価をいただき、嬉しいです。ドイツ語検定試験受験に向けて、第2Q、第3Qで個別指導を行います。希望者はこちらまでご連絡ください。
ドイツ語入門Ⅰ	1Q	河田 一郎	学習意欲の高い学生にも、満足してもらえる内容を検討したいと思います。第1Qで繰り返した基本が、より高度なドイツ語入門Ⅱで役に立つはずですが、ドイツ語検定試験受験に向けて、第2Q、第3Qで個別指導を行います。希望者はこちらまでご連絡ください。
ドイツ語入門Ⅰ	1Q	河田 一郎	高評価をいただき、嬉しいです。ドイツ語検定試験受験に向けて、第2Q、第3Qで個別指導を行います。希望者はこちらまでご連絡ください。
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1Q	飯浜 浩幸	授業改善アンケートのご協力ありがとうございます。経営学科の皆さんは、社会福祉学科の学生と一緒に受講ですので、他の受講していない科目名には違和感を感じたかもしれませんね。ご意見ありがとうございます。その辺のところ改善できるよう考えてみます。
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1Q	飯浜 浩幸	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。お褒めの言葉感謝です。自由意見で述べられていた良かった点、今後も踏襲していきたいと思えます。新型コロナ終息後の授業録画の在り方、検討していきます。
低所得者に対する支援と生活保護制度	1Q	大倉 司	プリント・パワーポイントなどの利用について肯定的な意見をいただいた反面、授業で扱う内容が多くて理解が追いつかないという指摘もいただきました。さらにわかりやすい授業の構築に努力する所存です。
保健医療サービス	1Q	中村 則子	生活の中の医療や保健の仕組みを意識して理解が深まるよう授業を進めていますが十分でないようです。伝え方や教材の使い方など全体的に工夫が必要と考えています。
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1Q	畠山 明子	遠隔授業からのスタートとなり、初回の授業では遠隔授業を受講する上での注意事項等の説明に時間を割いたため、授業の内容等シラバスにかかる説明時間を十分に確保できなかったかもしれません。申し訳ありません。
福祉行財政と福祉計画	1Q	小早川 俊哉	今後も分かりやすく解説するように努めます。パワーポイントや板書を全て書き取ろうとするのは困難ですので、要点を自身の言葉でメモするようにしてください。ノート作成は復習の際、参考文献等を参照しながら作成するものです。

福祉行財政と福祉計画	1 Q	小早川 俊哉	今後も分かりやすく解説するように努めます。パワーポイントや板書を全て書き取ろうとするのは困難ですので、要点を自身の言葉でメモするようにしてください。ノート作成は復習の際、参考文献等を参照しながら作成するものです。
福祉サービスの組織と経営	1 Q	大島 康雄	この科目は社会学などの要素もあります。本当は社会に出てからのほうが興味をもったり、理解しやすいものかもしれません。もっと、身近に感じてもらえるような話をしていきたいと思います。
美術学概論Ⅰ	1 Q	金子 敏也	美術学概論のテキスト選びは難しく、難儀します。今回は村上隆のやや古めの著作を使いました。しかし受講生のコメントを読むと、著作の古さに抵抗感を抱いた方も若干名いたようです。今後は、村上の近作も紹介し、そこで何を主張しているかの比較をすることが、ひとりの美術家の思想の変遷を考える上で有用であるかもしれないと思いました。今後の課題として、考えさせていただきます。
建築環境Ⅰ	1 Q	佐々木 哲之	理解度を単元ごとに確認しながら、授業を進めるよう改善していきます。配布資料の見直しをしていきたいと考えています。
建築法規Ⅰ	1 Q	佐藤 善太郎	建築法規Ⅰは、条文の解釈中心ですので、慣れない授業に戸惑った学生も多かったと思います。こちらも慣れない遠隔授業で思うように伝えられなかったもどかしさもありますが、この授業はこれから展開する建築法規Ⅱ～Ⅳのペースになるものです。殆どの学生が最後まで熱心に受講してくれましたので、今後も期待しています。
スタートアップ演習	1 Q	青山 浩之	第1クォーター水曜日1講目と金曜日1講目の科目で、履修者111名、回答者が95名。講義は3人によるオムニバス方式で実施。第2回から第8回は遠隔授業を、第9回から対面授業により講義を実施。アンケートは教員別にも分けられていないので一概に回答はできない。担当分3/4回が遠隔授業と大半が占め、当初の計画を修正し講義を実施。遠隔・対面授業にかかわらず、理解を深められるように興味を持ってもらうように工夫していきたい。
スタートアップ演習	1 Q	渡部・松下	大学の学び入門（社会福祉学科）の科目でした。高校までのラウングスキルの違いにより学修到達は異なるものになりました。「学生の授業理解力」、「教室外学習」、「自律的学習」を向上させるため、継続して授業改善をおこない、教員間の連携をたかめて参ります。
スタートアップ演習	1 Q	北嶋 洋一	オンライン授業の際、設定していた課題の内容が対面を想定していたものままだったため、特に制作物を要する課題に関してはチェック方法も含めて、学生には不自由を感じさせたのではないかと考えています。今後のためにも、オンラインでも対面でも授業形態に関わらない課題の設定とシラバスの研究を必要とする。PowerPointなどの補助教材の充実も図るべきと考えています。
現代社会と福祉Ⅰ	1 Q	小早川 俊哉	可能な範囲でパワーポイントの内容をメモする時間は作ります。今後の様々な授業も考え、授業中に全てを書き写すことよりも、要点を自身の言葉でメモをして、復習の際に教科書等を参照しながらノートを作成してください。
現代社会と福祉Ⅰ	1 Q	小早川 俊哉	可能な範囲でパワーポイントの内容をメモする時間は作ります。今後の様々な授業も考え、授業中に全てを書き写すことよりも、要点を自身の言葉でメモをして、復習の際に教科書等を参照しながらノートを作成してください。
相談援助の理論と方法Ⅰ	1 Q	櫻井 美帆子	できるだけシンプルに、平易な表現を用いながら伝えていけるように今後も努力工夫していく所存ですので、わかりづらい点などありましたらご助言ください。
相談援助の理論と方法Ⅰ	1 Q	櫻井 美帆子	できるだけシンプルに、平易な表現を用いながら伝えていけるように今後も努力工夫していく所存ですので、わかりづらい点などありましたらご助言ください。
相談援助の理論と方法Ⅲ	1 Q	大島 康雄	専門性が必要な仕事になると思います。私たちは社会的に求められている役割を果たす必要があるのです。その点を理解してくれたのはうれしいです。全員が納得することは難しいかもしれませんが、必要性が理解できるように伝えていきたいです。
相談援助の理論と方法Ⅲ	1 Q	大島 康雄	専門性が必要な仕事になると思います。私たちは社会的に求められている役割を果たす必要があるのです。その点を理解してくれたのはうれしいです。全員が納得することは難しいかもしれませんが、必要性が理解できるように伝えていきたいです。

地域福祉の理論と方法Ⅰ	1 Q	上原 正希	経営学部の学生さん向け。説明もわかりやすく、細かいところまでの指導というコメントをいただき、引き続き意識していきたいと思います。経営の学生さんにもよりわかりやすく指導をしていきたいと思います。全体的に高評価をいただき、ありがとうございます。
地域福祉の理論と方法Ⅰ	1 Q	上原 正希	社会福祉学部の学生さん向け。「説明もわかりやす」「板書も大きく見やすい」「テンポが良い」「用語をわかりやすく説明してくれる」などのコメントをいただきました。引き続き意識していきたいと指導をしていきたいと思います。全体的に高評価をいただき、ありがとうございます。
発達心理学Ⅰ	1 Q	佐々木 智城	パワーポイントや資料など多用し、授業内容をわかりやすくしています。重要な部分は復習し、授業は前回の振り返りから始めて記憶の定着を進めています。情報が多いためテンポはゆっくりと進めています。それも好評のようで今後もゆっくりと復習しながら進めていきます。
生涯学習概論Ⅰ(M)	1 Q	藤根 収	全体的に高い評価をいただきました。特に話し方、わかりやすさに工夫しましたが、そうした想いをしっかり受け止めて評価いただきました。ありがとうございます。これに慢心することなく、今後も学生のニーズに応じたわかりやすい授業を進めてまいりたいと考えています。
生涯学習概論Ⅰ(S)	1 Q	藤根 収	特に、授業の話し方、進め方、資料の作成や理解度の確認、さらに熱意について高い評価をいただきました。オンラインが中心な授業ですが、欠席も少なく、積極的に授業に参加してくれてうれしく思っています。今後とも学生のニーズに応える授業づくりに努めてまいりたいと考えております。
特別支援教育総論	1 Q	堀川 厚志	すべての項目で上位評価であり、基本的に維持継続したい。記述による指摘については、法律一覧の可視化や、早口で進行した授業の是正をする。図などの説明では、指示方法等を工夫するなど、より一層分かりやすい説明に改善したい。
肢体不自由者の心理・生理・病理	1 Q	坂上 俊樹	質問に十分お答えできていないことがあったようで申し訳ありません。お時間があれば、研究室においでください。できる限りお答えします。資料の送信は、対面授業が決まった以降、お会いした時にプリントしたものをお配りすることにし、配信をやめたのですが、かえて不親切な状況になったようです。以後、遠隔授業になったときは、事前配信に努めます。今後も、授業内容をよりよく理解していただき、楽しく参加していただけるよう努めます。
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	1 Q	大島 康雄	アカウントビリティが私は共感できるところで、現場で求められる役割だと思います。細かな理解も大事ですが、相手にどう伝えるかだと思います。私も皆さんに上手に伝えられるように頑張っていきたいです。
精神保健福祉援助演習Ⅱ	1 Q	大島・西野	遠隔授業にてグループワークを行うなど、教員・学生共に初めての試みもありましたが、とても満足できたが75%、十分満足できたが11%とある程度高評価をいただけたのではないかと思います。学生より貴重な意見もいただけたので、より一層の努力をしていきたいと思います。
臨床心理学	1 Q	佐々木 智城	臨床心理学での心理の捉え方を事例や質問紙等の様々な心理検査を体験しながら進める内容になっているので、難しい面もあると思います。今回はオンラインと対面の授業がありましたが、対面で体験しなければ理解が難しい内容は対面授業に回しました。今後も体験を重視していきたいと思います。
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	1 Q	西野 克俊	遠隔授業にてグループワークを行うなど、教員・学生共に初めての試みもありましたが、とても満足できたが78%、十分満足できたが11%、満足できたが11%とある程度高評価をいただけたのではないかと思います。学生の協力があり成功できた授業でもあるため、より一層の努力をしていきたいと思います。
社会的養護	1 Q	飯浜 浩幸	授業改善アンケートのご協力ありがとうございます。今回は新型コロナウイルス感染予防対策の関係で例年とは違った授業の進め方でしたが、授業内容を理解してもらえたこと幸いです。感染予防を取りながら受講者みなとの意見交換ができる形を模索したいと思います。
障害児保育Ⅰ	1 Q	坂上 俊樹	授業内容がより理解しやすくなるよう、教材の提示や展開の仕方をさらに工夫していきます。
人文地理学Ⅰ	1 Q	渡部 斎	これからも、講義内容をより充実していきたいと思います。
人文地理学Ⅰ	1 Q	渡部 斎	これからも、講義内容をより充実していきたいと思います。

カウンセリング論	1 Q	佐々木 智城	オンラインと対面授業があり、戸惑う面もあったと思います。授業は教科書と資料、動画などを使用し、カウンセリングの練習をするなど基礎を学べるようにしています。また、重要なトピック（今回はひきこもり、スマホ依存など）にも触れて実際に起こっている現象の解説も入れました。今後もわかりやすく進めていきます。
カウンセリング論	1 Q	佐々木 智城	オンラインと対面の授業があり、戸惑うことも多かったと思います。オンラインが聞きやすく、対面で聞きずらかったのはマイクの関係もあると思いますが、聞きやすさも大切なのでゆっくり話したいと思います。 カウンセリングは体験が大切なので今後も演習を入れながら、トピック（ひきこもり、スマホ依存等）も入れながら進めていきます。
デザイン概論Ⅰ	1 Q	梅田 真紀	授業の理解度を向上させるため、パワーポイントの図や文字の改善を図りたいと思います。
デザイン製図Ⅰ	1 Q	松岡 龍介	この科目は、将来、美術においては幾何学的な立体造形を創作するような事に興味のある学生や、プロダクトデザイナーやインダストリアル・デザイナーとして社会で活躍しようとする学生、あるいは、高校の美術教員（工芸）の教員として指導にあたることを希望する学生たちのための「最初の製図表現」の科目です。三面図や立体図、CG等の表現を学び、誰にでも判りやすい内容で、クラスの進度に合わせて基本的な内容を学びます。
インテリアデザインⅠ	1 Q	松岡 龍介	本科目は、1年次に学んだ製図関係科目の1年間の総括として、学生各自の自室をコンベックスで測り、インテリア/建築の図面を完成させることを目的としている。この課題の特徴は、自らが住んでいる部屋を計ることで、製図表現としての能力を向上させることのように思える。つまり、自らが見て、野帳にメモをして、平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を描くことによって、インテリア空間を製図として再具現化することとである。
東洋・日本美術史Ⅰ	1 Q	金子 敏也	コメントを読んで、同じ章を要約した複数の学生が内容について討論する形式の時間を取り入れるなら、もっと受講者が講義に積極的に参加でき可能性を感じました。今後の研究課題として、実践していきたいと思います。
子どもの保健	1 Q	中村 則子	学生のこれからの実習、就職、子育てなどつなげ子どもの健康の理解がしやすいよう心がけています。伝え方や進め方なども含め十分ではないようなので更に工夫が必要と考えています。
建築計画Ⅰ	1 Q	安藤 淳一	履修生のみなさん、アンケート調査にご協力ありがとうございました。コメントにありましたPPをめくるスピードは、解説する情報内容の見直しとともに改善したいと思います。
建築材料実験	1 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。今年度の授業は半数が遠隔授業で実施した関係上、遠隔での資料によるJIS試験及び実験動画解説等を行いました。全般的に好評との意見が多数あり安心してます。残りの半数での実験に関してはデモンストレーションも含めて、予定した実験を実施でき、さらに講義授業との関連が実験を通して理解できたとの意見が多数ありました。さらに実験を通しての理解度が増すように改善していきます。
建築士演習Ⅰ	1 Q	佐藤 善太郎	建築士演習Ⅰはこれから展開する建築法規Ⅱ～Ⅳ、あるいは設計製図Ⅵのベースになるものです。殆どの学生が最後まで熱心に受講してくれましたので、今後も期待しています。
図学（建築図学を含む）	1 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。模型を利用した図形の説明が好評であり、さらに模型を増やしていこうと思います。作図の解説にパワーポイントを利用して作図順解説や完成課題を毎回Teamsに投稿したことも好評との評価があり、さらに改善しながら資料作成をします。また授業進行が速すぎるとの意見もあり、理解度の確認などをチャット機能などを利用しながら改善していこうと考えます。
デザイン概論	1 Q	梅田 真紀	全ての項目で高評価ですが、より授業の改善に努めたいです。
北国の建築と住まい	1 Q	安藤 淳一	履修生のみなさん、アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございます。回答いただきましたコメントにもありました、PPのページをめくるスピード、文字の大きさにつきまして、そして内容につきましてもより理解できるようなものを目指して改善いたします。
建築構造力学Ⅲ	1 Q	桜井政・小笠原	建築構造力学Ⅰ、Ⅱと比較すると内容が高度になるので、予習復習が必要であり、予習をしている学生の数が少ないと感じる。課題は予習編と復習編の2つ実施したほうがよさそうである。

測量学	1 Q	長森 正	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。今年度の授業は半数を遠隔授業で実施した関係上、配布資料を増やしパワーポイント資料を修正しながら実施しましたが、配布資料が適切で見やすいとの意見があり安心しました。また2回の実技を実施しましたが、講義内容を実際に体験できて理解が深まったとの感想もあり、さらに理解度が増すように配布資料や実技の充実を検討していきます。
ビジネス創造論	1 Q	阿部 裕樹	Teamsの活用は学生にも喜ばれ、効率も良いため、引き続き有効活用したいと思います。個々の学生とコミュニケーションを取りやすくなりました。より一層、授業の環境改善に留意してまいります。
スポーツ社会学	1 Q	飯部 紀昭	100人を超える受講学生の出席率は95%以上で、対面授業でもほとんど変わらず続いた。しかも、受講態度も概ね真面目・前向きで学習意欲も高かった。こんな経験は初めてだった。
スポーツ社会学	1 Q	飯部 紀昭	100人を超える受講学生の出席率は95%以上で、対面授業でもほとんど変わらず続いた。しかも、受講態度も概ね真面目・前向きで学習意欲も高かった。こんな経験は初めてだった。
経済学概論	1 Q	河野 善文	いただいた意見を参考に今後も最新の経済ニュースを紹介して行きたいと思います。また、板書等について今後も丁寧な説明と見やすい板書をこころがけます。
経済学概論	1 Q	河野 善文	いただいた意見を参考に今後も最新の経済ニュースを紹介して行きたいと思います。また、板書等について今後も丁寧な説明と見やすい板書をこころがけます。
西洋経済史	1 Q	近藤 保義	声小さく聞き取りにくいという意見が複数ありました。窓を開けばなしにし、マスクをしながらの授業であったせいもあるかもしれませんが声を大きめにするように心がけたいと思います。
西洋経済史	1 Q	近藤 保義	声小さく聞き取りにくいという意見が複数ありました。窓を開けばなしにし、マスクをしながらの授業であったせいもあるかもしれませんが声を大きめにするように心がけたいと思います。
トレーニング科学Ⅰ	1 Q	篠原 諒介	授業改善アンケートのご協力ありがとうございました。「講義がわかり易かった」という意見は大変安心しました。今後は、ノート提出をパソコンでも可能にするための工夫を考えるとともに、様々な文献や研究などを学生にわかり易く伝えられるように努力します。
商法	1 Q	青山 浩之	平均出席率90%、回答率93%。第2回から第8回は遠隔授業を、第9回から対面授業により講義を実施。遠隔授業では、パワポのスライドの画面共有で講義を進め、印刷用資料を配信。講義の受講方法（アンケート109名回答）は、パソコン43名・タブレット9名・スマホ62名と6割がスマートフォンであった。資料は印刷して講義を受講しているかは、印刷して受講16名・資料なしで受講93名と印刷環境がない学生が9割を占めた。
北海道経済論	1 Q	石山 玄幸	本講義を受講した学生には、受講上の注意事項など、厳しいを要求をしたにも関わらず、高評価を頂いたことに感謝します。ノートを書く分量が多いとの指摘がありましたが、講義の内容を理解する、もしくは試験に対応するには、ノートの内容が基本となります。ノートを書く時間も十分に取っていますので、ご理解頂けたら幸いです。
ビジネスプランニング論	1 Q	石山・信濃	受講学生から高い評価を頂いたことに感謝します。本講義は、納期内にビジネスプランを作成して、プレゼンテーションをするという内容でしたが、このような一連の流れは、社会人に必要なスキルでもあります。ぜひ、後輩たちにも積極的に受講するように勧めたいです。
体育史	1 Q	尾西 則昭	評価ありがとうございます。今回もまだまだ足りないところを指摘されておりますので興味、関心を持って頂けるよう改善、工夫に努めたいと思います。
スポーツ指導論	1 Q	高井 雅一	今回、突然オンラインで授業が行われ、話し方や資料の提示など不慣れで学生に迷惑をかけた。対面授業になったが、感染症予防のためグループ討議や発表など学生主体の授業内容ができなかった。今後の対策として、授業形態や授業内容の工夫・改善を考え、実行に移していきたい。
経営分析論	1 Q	石山 玄幸	受講した学生から高い評価を頂いたことに感謝します。引き続き、学生が満足するような講義を展開できるよう精進する所存です。
レクリエーション概論	1 Q	尾西 則昭	評価ありがとうございます。今回もまだまだ足りないところ指摘されておりますので興味、関心を持って頂けるように改善、工夫に努めたいと思います。

産業社会論	1 Q	山本 一彦	テクニカルタームをより良く理解できるよう、さらに工夫したい。第3回から8回にかけての遠隔授業では、通常の教室授業での板書とは違った表示を試みたが概ね良好に展開できたと思われる。次年度の同科目に活かしたい。
ビジネス英語	1 Q	石田 暁子	前半が遠隔授業だったため、学生の様子が把握できず、対面授業になって初めて教科書を購入していない学生の多さに驚いた。このことが授業内容の理解の支になっていたことが残念である。
社会学概論	1 Q	松下 守邦	1回-8回は遠隔授業、9回-15回は対面授業でした。Teamsのチャンネルを各授業日には授業資料、授業後の復習のための参照文献、教員復習記事チャットとしました。配布資料をデジタル化してアーカイブとしたこと、Forms(簡易クイズアプリ)出席管理、さらに質問相談の設問には授業スタイルへの貴重な学生意見をもらいました。FD授業アンケート(匿名回答)は15回目の実施ですが、Formsの各授業日への質問(記名回答)を併用し授業改善をおこないます。
社会学概論	1 Q	松下 守邦	社会学概論の教材研究法を、公民科「現代社会」雇用システムに設定、社会学(産業、職業、経営)、そのほか社会科学から文献論証する、テキスト精読を選びました。対面授業は9回以降となり、第1言語が日本語ではない留学生の複数名が履修となり、分担報告スタイルのシラバスを修正提示しました。テキストの文献読解(アクティブ・リーディング)によって教材研究法に資するよう、授業工夫をおこないます。
教職論	1 Q	荒木 広式	シラバスに係る授業テーマを設定し、構想⇒情報収集⇒思考⇒表現の過程を通して、主体的に課題に取り組む姿勢を培うとともに、教育の最新情報や教育現場のエピソードを紹介するなど、さらに興味のある授業づくりに努めます。
教育原理	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は「とても」が53%「充分」が24%「満足」が18%でした。「熱意があったか」については「とても」が65%「充分」が35%でした。「資料の適切さ」については、「とても」が65%「充分」が24%「適切」が12%でした。いただいた評価の結果を励みに一層の授業改善に努めます。
教育原理	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は「とても」が35%「充分」が29%「満足」が26%でした。「熱意があったか」については「とても」が45%「充分」が39%「そう思う」が13%でした。「資料の適切さ」については、「とても」が58%「充分」が29%「適切」が12%でした。いただいた評価の結果を励みに一層の授業改善に努めます。